

淡路島と世界をつなぐ

—第35回内閣府主催世界青年の船の取り組みから—

所属：大正大学 地域構想研究所 淡路支局

氏名：山中 昌幸

はじめに

淡路支局は、支局長が代表をつとめる大学発ベンチャーの㈱次世代共創企画と共同で、地域で新しい価値を共創するプラットフォーム「淡路ラボ」を運営しています。淡路ラボでは、淡路支局が開設されてから2022年度までの3年間で、とくに若者と地域の共創を促進し、地域資源の活用や地域イノベーションの推進を通じて淡路島の持続可能な発展を支援してきました。



淡路支局が開設された2020年度から2022年度の3年間はコロナ禍で、多くの学生達が留学できなかつたり、オンライン授業で大学に登校できなかつたりしました。そこで、淡路ラボとして淡路島に全国から100人以上の学生を繋ぎ、当時、国内最多クラスの55人の学生が延べ17の事業者で長期実践型インターンシップを経験し、そのうち留学予定の12名が休学して地域で挑戦。さらに、この参加者の約1割にあたる6人が淡路島での就職や起業などで定住しています。また、メディアへの紹介は20件以上に達しました。

地域と世界をつなぐ

2023年度からの3年間は淡路ラボの事業の一つとして、地域と世界をつないでいます。第一弾として、内閣府世界青年の船を兵庫県と連携して招致し、淡路ラボ事務局が中心となって実行委員会を設け、活動を支援してきました。

内閣府主催世界青年の船は、内閣府が主催する国際交流プログラムの一つであり、今年で35回を迎えます。世界各国から選ばれた若者が船に乗り、日本を含む複数の国を巡りながら交流活動を実施。参加者は異なる文化や背景を持つ仲間と共に生活し、地域社会や文化に触れながら国際理解やリーダーシップ力を培います。

船の寄港地では、参加者が地域の方々と交流し、地域の文化や歴史を学ぶ機会や、世界中の若者が互いを理解し共に成長する機会が提供されます。ただし、2020年度からの3年間はコロナ禍で活動が中止もしくはオンライン化になるなど活動が制限され、2023年度からは暫定的に日本一



周となりました。

淡路島における寄港地活動のテーマは「ORIGIN」としました。日本最古の歴史書「古事記」の「国生み神話」では、伊弉諾尊・伊弉冉尊の神々が初めの大地を整え、おのころ島を創造します。日本神話によれば、二神はその後、日本列島の島々を生み出し、最初に生まれたのが淡路島でした。淡路島は、「The origin of Japan」であり、「Origin」は、起源・根源・原点・はじまりを意味します。The origin of Japan の淡路島で、本当の想いに挑戦している人たちとの交流や体験を通して、参加者は自分の原点を思い出し、新たに挑戦するきっかけになることを期待して活動を支援しました。



参加者の声として、「とても歴史的な土地に惹かれた」「食が素晴らしかった」「人が温かい」「淡路島に再訪したい」など満足の声が多くありました。とくに、初日に行った伊弉諾神宮での正式参拝の体験で、「多くの宗教を超えて、一つの場で世界平和を祈った経験が良かった。多様性を受け入れられる場所が良かった」という声が、日本のはじまりの島で、日本が大切にしている「和」の心が伝わったことにとってもうれしくなりました。また、地元事業者や地元住民からも「国際交流ができ、海外からの視点がとても刺激になった。あらためて淡路島の良さがわかった」など多くの喜びの声がありました。

【開催概要】

活動期間：2024年2月6日(火)～8日(木)

活動場所：兵庫県淡路島内各地

寄港場所：2月6日(火)～7日(水) 洲本港

2月7日(水)～8日(木) 神戸港

参加国：アルゼンチン、エチオピア、フランス、インド、アイルランド、ヨルダン、ケニア、メキシコ、ニュージーランド、ソロモン諸島、トルコ、アラブ首長国連邦、ザンビア及び日本

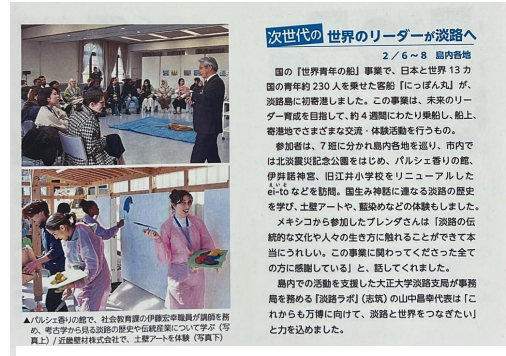
参加者数：約230人

活動内容：初日は、淡路島を知ってもらうために、『古事記』の冒頭「国生み神話」に登場する、国生みの神様をお祀りする伊弉諾神宮で正式参拝や、国指定重要無形民俗文化財である淡路人形浄瑠璃鑑賞など。二日目は、7つのコースにわかれ、天然藍染めや土壁、陶芸など地域資源を活用して活動している人との交流・体験。三日目は、AWAJI Global Gathering を開催し、各グループや個人で探究した内容を全体で共有し、未来に向けたアクションを考えます。



初日 (2月6日(火)) : Discover 「淡路島を知る」

- 9:00 入港(洲本港：タグボートでのピストン移動)
- 10:00 淡路島地域資源視察出発(バス：大型7台)
(共通)伊弉諾神宮
北回り 北淡震災記念公園、野島断層保存館、
パルシェ香りの館
南回り 淡路人形座
- 18:00 班ごとに順次帰船(洲本港)



2023年3月(淡路市報)

二日目 (2月7日(水)) : Dive 「飛び込み、理解を深める」

- 各コーディネーターがバスごとのグループで行動。(7コース)
- 9:00 コース別交流および体験 出発(バス：大型5台、中型4台)
- 18:00 班ごとに順次帰船(神戸港)

三日目 (2月8日(木)) : Deliver 「淡路島で学んだこと、感じたことを共有し、持ち帰る」

- 9:00 神戸港発(バス：大型7台)
- 10:30 淡路夢舞台にて、AWAJI Global Gathering 活動を通して探究した内容を共有。
- 13:00 道の駅あわじでフリータイム&交流
- 17:30 帰船(神戸港)

今後に向けて

淡路ラボは、2025年の大阪・関西万博の共創パートナーとして兵庫県で初めて登録されました。2025年大阪・関西万博時では、今回の内閣府世界青年の船の活動で気づきや学びをいかして、淡路島全体を会場とし、参加者が地元の事業者や住民との交流、体験を提供。テーマは「Origin ～本当の自分に還る場所、淡路島～」とし、参加者が自己の原点に立ち返り、持続可能な未来に向けた取り組みを始めるきっかけとなることを目指しています。

また、これまでの「人をつなぐ」ことは、淡路市や淡路市商工会とも連携して、「島の人事部」を発足し、活動を継続していきます。目的は淡路島と外部の人材を結びつけ、人手不足を解消と新しい働き方の推進をすることです。必要な人材像を明確にし、副業やインターンシップ、専門家の募集・マッチングを行い、プロジェクト実行においてもサポートしていきます。

2024年度の支局活動の大きな方向性として、2025年大阪・関西万博に向けた淡路島と世界をつなぐ活動と、「島の人事部」の二つの活動を推進していきます。

世界青年の船関連のメディア掲載一覧

掲載日	掲載メディア	内容
2024/2/6	神戸新聞	世界青年の船淡路島初寄港！
2024/2/7	神戸新聞・読売新聞	世界のリーダーが淡路島に
2024/2/8	産経新聞	世界青年の船、淡路島初寄港！
2024/3/8	淡路市報	世界のリーダーが淡路島に